

# 日本遺産構成資産 所在地マップ

## ②江戸末期から明治の足袋蔵・店蔵



江戸末期のこの時代には、まだ「足袋蔵」という名称はない。住宅の一部の土蔵、店蔵、酒蔵、米蔵。江戸時代末期から明治20年代に建設した蔵のほとんどは、明治30年代以降に足袋を収納する足袋蔵に転用されています。初めから足袋蔵として建設された、最も古い現存する蔵は明治32年に棟上げされた「牧野本店の壺番蔵」です。

最初の足袋蔵の建設は青縞間屋久右衛門の土蔵」と、明治32年江戸時代末期から明治20年代に当初建設された蔵を明治30年蔵に転用したものです。「牧野本店の壺番蔵」は当初から足袋を収納する目的で明治32年に再建・棟上げされた蔵として現存する最も古いものです。『十万石ふくさや行田本店店舗』明治16年(1883)の店蔵(土蔵)この店舗は元:呉服商山田清兵衛商店の店舗として、明治16年(1883)に棟上げされた店蔵です。《国登録有形文化財》『栗代蔵』明治39年(1906)の足袋蔵。栗原代八商店が明治39年(1906)日露戦争後の不景気で、仕事が欲しがっていた職人に造らせた、と伝えられている足袋蔵。『草生蔵』明治43年(1910)の足袋蔵。市内で最も古い石造りの足袋蔵。



の倉庫として江戸時代末期に建設された「大澤の「牧野本店の壺番蔵」です。この二棟を除き、建設された蔵は全て、足袋産業関連以外の用途

代以降に足袋

店の壺番蔵」は



日露戦争後の不景気で、仕事が欲しがっていた職人に造らせた、と伝えられている足袋蔵。『草生蔵』明治43年(1910)の足袋蔵。市内で最も古い石造りの足袋蔵。